



地域防災の強化に向けて

近年最大規模の被害をもたらした東日本大震災から8年が経った現在も、様々な自然災害が続いて、今後も各地を襲う局地的集中豪雨や大規模な地震発生の可能性も指摘されています。その際、防災対応の要はやはり「地域」だと思います。皆さんの事業所は、「もしも」の際に地域の住民の方々と連携は取れていますか？防災の視点に立っての地域づくりを推進するに当たっては、自主防災組織を始めとする地域住民が、消防本部・消防署や消防団で構成する消防機関との緊密な連携を持ち、一体となって取り組んでいくことが必要です。

特に消防団は、我が国のほとんどの市町村に設置されている歴史ある組織であり、防災面での十分な訓練と経験を積んでいることから、それぞれの地域でリーダーシップをとり、自主防災組織や住民に対する訓練指導、防災知識の普及啓発を行うことが期待されます。

また、地域ぐるみで防災力の向上を図るためには、各事業所が、町内会、婦人会、青年団、商店街、学校、地域にある様々な組織やボランティア団体等と多面連携を図っていくことが有効です。

さらに、企業が地域社会において防災活動に積極的な役割を果たしている例も少なくなく、防災活動との連携は地域防災力の向上に大きく役立つものです。

皆さんの事業所も、地域の防災組織や地元の消防団と連絡を取り、今後の防災対策に取り組んでみてはいかがでしょうか。

消防庁消防団ホームページ

<https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/>



レッスン中の安全管理について

レッスンでは、安全を第一に考え指導していくことが大切です。楽しくレッスンを行っていても事故や怪我が起こると楽しい雰囲気は一変してしまい、テニスそのものを嫌いにさせてしまう場合もあります。どのスポーツにもルールがあり、ルールを教えていく事もテニス技術を教えていくのと同様に大切です。スポーツには事故が付き物ですが、可能な限り未然に防止する事も指導者の役目となります。コーチだけが安全管理をするのではなく、お客様と一緒に行っていきましょう。

■安全に対してコーチが行う事

- ・コート内、コート周りが安全であるか施設の点検を行う。危険な物がある場合は、排除しておく。
- ・目の前のお客様だけでなく、クラス全体に視野を広げる。
- ・危険な場所での休憩者がいないか必ず確認する。
- ・常にゲストの安全管理を行う。(足元のボール、カゴ、器具の配置、スピードコントロール等)
- ・水分補給、ストレッチは細目に呼びかけを行う。

■事故の対応方法

- ・怪我の発生状況を確認し、落ち着いて対応する。
- ・事故が起きた時、軽度であれば対応後レッスンに参加するかの旨を確認する。
- ・重度やコーチが明らかに難しいと判断した場合、救急要請や、レッスンを途中で終了させ、病院に行く事を勧めていく。

■テニスで多い事故を防ぐには

テニスで多い事故は、打撲、肉離れ、切傷、捻挫等。未然に防ぐため以下の点に注意する。

- ・ボールのスピードコントロール、力加減をレベルに合わせる。
- ・ボールの深追いについて、無理をさせない。
- ・打ったボールが流れ球になった時は打った方や周りの方に『●●さん、ケア！』の声掛けを行う様伝える。
- ・ラリー中も常に周りを確認し、危険な場合はゲストに注意を促す。